

2008年8月15日19面に掲載されました

情報漏れ役所に死角

アナログ式電話子機

市販の受信機で会話を傍受できる、アナログ式コードレス電話機の子機が、役所などで漫然と使われていたことが分かった。専門家は「個人情報漏れる恐れがある」と警告。総務省も全国の自治体に対策を講じるよう通達を出した。

埼玉県深谷市で4月、市の施設内で計68台のアナログ式コードレス電話機が使われていることが発覚。

「庁舎の外で受信機を試してみたら、子機の会話がはつきりと聞こえた。驚いた。傍受の危険を知らずに使っていた」(危機管理課)

戸籍情報を扱う市民課では、職員が自分の机を離れて専用端末を操作しながら電話で対応するため、日常的に子機を使っていた。深谷市は既に電話機をデジタル式に切り替え、さらに個人情報を含む会話は親機を

使うようにと指示した。

千葉県佐倉市でもアナログ式コードレス電話機約50台をデジタル式に切り替える方針を決めた。さらに情報保全を強化するため、盗聴対策の専門家「情報安全管理士」を養成している特定非営利活動法人(NPO法人)「日本情報安全管理協会」に職員2人を派遣し、盗聴探査の実技研修を受けさせた。

庁舎外で傍受「驚いた」

同協会の佐藤健次事務局長は「市民の家族構成などの個人情報、振り込め詐欺などの犯罪に悪用される恐れがある」と指摘。傍受を防ぐには①電話機をデジタル式に交換する②個人情報を扱う会話には、子機ではなく親機を使うなどの方法がある。

電話機メーカーの担当者は「デジタル式なら傍受の危険は低くなるが、百パーセント安全とは言い切れない。重要な個人情報を扱う際は、親機を使ってほしい」と話している。